

記 入 日 2014 年 12 月 3 日

## 1. 概 要

実践団体名	芦北町立田浦小学校		
連絡先	0966-87-0015		
プランタイトル	地域から学び、地域とともに取り組む防災教育		
プランの対象者※1	児童、保護者・PTA 地域住民	対象とする 災害種別※2	地震、津波、水害

※1 別紙「記入上の留意点」の1. 項目から選択し、記入してください。(複数選択可)

※2 別紙「記入上の留意点」の2. 項目から1つ選択し、記入してください。

### 【プランの目的・ここがポイント!】

- ①防災教育年間指導計画を作成し、年間を通して防災教育を行うことで児童の防災意識や防災に関する実践力を高める。
- ②児童、保護者、地域住民が参加する防災フェスタを実施し、地域の防災意識を高める。
- ③児童が作成した製作物を地域住民や他の小学校、保育所、幼稚所に配布することにより地域全体に防災の重要性を啓発する。
- ④地域で過去に発生した災害を学習に取り入れ、過去の災害から学ぶ防災教育を計画する。

### 【プランの概要】

本校は、平成24年～25年度熊本県教育委員会指定の防災教育研究推進校として研究を進めてきた。研究を通して防災教育において地域の実態に即し、地域団体との連携を重視した取組が必要だということが分かった。

そこで本年度は本校の防災教育の目標を「地域との連携、地域への情報発信」とした。まず地域との連携をより深めるために過去の水害を教材として学習に活かし、保護者や地域住民も参加できる防災フェスタを実施してきた。また、地域への情報発信として小学校低学年や幼稚園・保育園向けの絵本を高学年の豊かな発想を活かして作成し、保育所、地域の小学校へ配布する予定である。地域への情報発信や持続可能な防災教育を意識し、プランを実践してきた。

### 【期待される効果・ここがおすすめ!】

- ・地域との連携を深めることで、地域の実態に即した防災教育を行うことができる。
- ・地域住民や保護者も参加する防災フェスタを開催することで、児童の防災意識だけでなく地域や家族の防災意識を高めることができる。
- ・児童の学習に基づく防災に関する情報を発信することで、地域や家庭の防災意識を高めることができる。
- ・地域で過去に起こった災害を防災教育に取り入れることで地域の特性に応じた防災教育を行うことができる。

## 2. プランの年間活動記録 (2014 年)

	プランの 立案と調整	準備活動	実践活動
4 月	年間計画の作成と調整	防災に関する掲示物の作成	特になし
5 月	各学年の取り組み内容の計画 防災フェスタの計画 避難訓練の計画 児童引き渡し訓練の計画立案	小・中合同避難訓練の打ち合わせ 児童引き渡し訓練の検討 防災フェスタの日程調整 洪水体験者との打ち合わせ	防災縦割り班活動 第一回防災フェスタ実行委員会会議  自分が住む地域の防災マップを作ろう、発信しよう (4 年)
6 月	防災フェスタの計画調整 次年度の小・中合同避難訓練、 児童引き渡し訓練の計画	防災フェスタの各ブース担当者へ の依頼と連絡 各関係機関との連絡調整 各学年の防災教育に関する情報交換	小・中合同避難訓練 保護者への児童引き渡し訓練 第二回防災フェスタ実行委員会会議 災害から命を守ろう (5 年)
7 月	各関係機関と防災フェスタに 関する連絡調整 次年度防災フェスタの計画	防災フェスタで使用する道具準備 各ブース担当者との打ち合わせ	第二回たのうら子ども防災フェスタ 防災無線による地域住民に向けた防災フェスタの案内 伝えよう！わたしたちの町の防災 (6 年) 防災に関する掲示物の掲示
8 月	担任と 2 学期以降の防災教育 の計画	チャレンジプラン中間報告会資料 作成	2 学期の防災教育に関する意見交換会 (校内) 1 学期の防災教育のまとめ
9 月	2 学期の防災教育について各 担任と情報交換 防災縦割り班活動の計画	防災に関する掲示物の作成 防災リレーに必要な道具の準備 6 年生作成の絵本等の検討	運動会 (防災リレー)  ボランティア名人になろう (3 年)
10 月	不審者避難訓練の計画 緊急地震速報を使った地震避 難訓練の計画	不審者避難訓練の準備 絵本やパンフレットの修正 印刷所と絵本に関する打ち合わせ	防災縦割り班活動 防災に関する掲示物の掲示
11 月	学級懇談会用「ちょこっと防 災」プリントのテーマ検討 地域配付用防災通信の計画 地震避難訓練の計画	学級懇談会用「ちょこっと防災」 プリントの準備 地域配付用防災通信の作成	緊急地震速報を活用した地震避難訓練 不審者対策避難訓練 学級懇談会での保護者への情報発信「ちょこっと防災」 学習発表会で防災について保護者、地域に発信 (5 年)
12 月	公共施設に掲示する掲示物の 計画 次年度の避難訓練について町 の防災課と連絡調整	小学校、保育園、幼稚園に配付す る絵本の修正 公民館に掲示する掲示物の準備 絵本の印刷依頼	教室以外の場所での被災を想定した避難訓練 地域への防災通信の発行 民生・児童委員への防災劇や防災に関する発表 災害時伝言ダイヤル体験 (6 年)
1 月	公民館に作成した掲示物を掲 示する計画 絵本の配付計画	区長や公民館長との打ち合わせ	火災避難訓練 公民館に掲示する掲示物作成 防災縦割り班活動
2 月	本年度の防災教育の反省 次年度の防災フェスタの計画 修正	次年度の防災フェスタに向けて各 関係機関との連絡調整	地震避難訓練の実施 公民館に防災に関する掲示物を掲示① (3 年生) 町内の小学校、幼稚園、保育園に絵本を配付 (6 年生)
3 月	次年度の防災教育の検討 防災フェスタの計画 年間の避難計画 防災マニュアルの見直し	防災フェスタの関係機関との情報 交換 防災教育について情報交換	公民館に防災に関する掲示物を掲示② (3 年生) 防災教育、防災マニュアル、避難訓練検討会

### 3. 実践したプランの内容と成果

【実践プログラム番号：  1 】※3

タイトル	防災に関する掲示物の作成と掲示
実施月日（曜日）	7月、10月のそれぞれの月に1か月間掲示
実施場所	西側階段、東側階段
担当者または講師	担当者・講師等の区分：本校職員 氏 名：青山浩子、引地香奈子 所属・役職等：6年担任、養護教諭
所要時間または「コマ数×単位時間」	1製作あたり30分程度
プログラムのカテゴリ、形式※4	その他
活動目的※5	防災意識を高める
達成目標	防災に関する掲示物を掲示することで児童の防災意識を高める
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	<ul style="list-style-type: none"> <li>各階に掲示する防災に関する掲示物を作成</li> <li>各階に児童の発達段階にあった掲示物を掲示</li> </ul>
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> <li>掲示物入れ</li> <li>印刷した掲示物</li> </ul>
参加人数	掲示物製作（本校職員 5名）
経費の総額・内訳概要	0円（プリント印刷に関する費用を除く）
成果と課題	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地震発生時にとるべき行動を言葉や絵で掲示することで、児童の防災に関する意識を高めることができた。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各学年の防災教育や避難訓練と連動した掲示が必要である。</li> </ul>
成果物	

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

**【実践プログラム番号：  2 】** ※3

タイトル	防災縦割り班活動
実施月日（曜日）	5月、7月、9月、10月、1月の水曜日に実施（月1回）
実施場所	本校校舎内
担当者または講師	担当者・講師等の区分：本校職員 氏 名：日常活動部 所属・役職等：日常活動部
所要時間または「コマ数×単位時間」	5コマ×15分
プログラムのカテゴリ、形式※4	その他の学校内での時間
活動目的※5	遊び・楽しみながらの防災
達成目標	ゲームや体験的活動を通して防災に関する知識や意識を高める
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 毎回6年児童が計画を立て、15分間の活動を決める</li> <li>・ 水曜日の業間15分を活用し、防災に関する体験的活動やゲーム形式の活動を行う</li> </ul>
準備、使用したもの ・ 人材 ・ 道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ アイマスクでの避難体験、誘導體験</li> <li>・ 防災カードゲーム</li> <li>・ 防災カルタ</li> </ul>
参加人数	本校児童198名、本校職員16名
経費の総額・内訳概要	0円（プリント印刷、ラミネートに関する費用を除く）
成果と課題	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1年生から6年生まで児童全員が楽しみながら防災に関する知識を習得し、防災意識を高めることができた。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 次年度以降は本年度の計画を見直し、児童の防災意識や防災に関する知識を高めるための取組となるように改善する必要がある。</li> </ul>
成果物	

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

**【実践プログラム番号： 3】** ※3

タイトル	自分が住む地域の防災マップを作り、発信しよう
実施月日（曜日）	5月～7月
実施場所	本校、各家庭
担当者または講師	担当者・講師等の区分：本校職員 氏 名：宮川文代 所属・役職等：4年担任
所要時間または「コマ数×単位時間」	25コマ×45分
プログラムのカテゴリ、形式※4	総合的な学習の時間
活動目的※5	防災に関する知識を深める
達成目標	自宅周辺の地図に危険個所や避難経路などを書き込む活動を通して、自宅でも安全に避難できるようにする
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自宅周辺の地図から危険個所を発見する</li> <li>・家族や自宅周辺に住む地域の方々から危険個所などに関する情報を集める</li> <li>・自分の自宅周辺の防災マップを作成する</li> <li>・作成した防災マップを使って、家族に自宅周辺の危険個所や避難経路を説明する</li> </ul>
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・模造紙</li> <li>・油性ペン</li> </ul>
参加人数	4年児童23名、保護者
経費の総額・内訳概要	0円（ただし、プリント印刷、ラミネートに関する費用を除く）
成果と課題	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自宅周辺の防災マップを作成し、保護者に説明することで児童だけでなく、保護者の防災意識を高めることができた。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・作成した防災マップを自宅周辺の地域住民に配付したり、地区児童会で発表させたりするなどの工夫が必要だった。</li> </ul>
成果物	

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

**【実践プログラム番号： 4】** ※3

タイトル	災害から命を守ろう
実施月日（曜日）	6月～11月
実施場所	本校
担当者または講師	担当者・講師等の区分：本校職員 氏 名：溝口万代美、島田翔平 所属・役職等：5年担任
所要時間または「コマ数×単位時間」	25コマ×45分
プログラムのカテゴリ、形式※4	総合的な学習の時間
活動目的※5	防災に役立つ資料・材料作り
達成目標	災害に関する知識を深め、地域の防災に役立つものを作成する
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害に関するビデオや写真を見て、調べたいテーマを決める</li> <li>・テーマごとにグループを編成し、計画を立てる</li> <li>・グループごとにテーマに関する調べ学習を行う</li> <li>・調べてわかったことをまとめる</li> <li>・地域の防災に役立つものを作成する</li> </ul>
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・画用紙</li> <li>・油性ペン</li> <li>・模造紙</li> </ul>
参加人数	5年児童 46名
経費の総額・内訳概要	0円（プリント印刷、ラミネートに関する費用を除く）
成果と課題	<b>【成果】</b> ・安否札や災害時・災害後に必要な道具チェック表などを作成することができた。 <b>【課題】</b> ・災害全般について調べさせ、学ばせることはできたが、地域の災害に関する学習を深めることができなかった。
成果物	安否札、災害時に必要な道具チェック表

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

**【実践プログラム番号： 5】** ※3

タイトル	小・中合同避難訓練（地域住民参加）
実施月日（曜日）	6月6日（金）
実施場所	田浦小学校校区（運動場、二次避難場所など）
担当者または講師	担当者・講師等の区分：本校職員 氏 名：平江健 所属・役職等：理科専科
所要時間または「コマ数×単位時間」	1時間
プログラムのカテゴリ、形式※4	イベント・行事、避難・防災訓練
活動目的※5	災害を想定した訓練
達成目標	地震発生時や地震発生後に命を守るための行動をすることができる
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地震発生時の放送後、机の下などに退避する</li> <li>・ゆれがおさまった後、運動場に一次避難</li> <li>・津波の恐れがあることから、二次避難場所に避難</li> <li>・消防署職員より講話</li> <li>・クラスで事後指導</li> </ul>
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・消防署職員</li> <li>・本校職員、中学校職員</li> </ul>
参加人数	本校児童198名、本校職員18名、中学校生徒113名、中学校職員16名、地域住民20名、消防署職員6名
経費の総額・内訳概要	0円
成果と課題	<p><b>【成果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全児童が真剣に安全に避難することができた。6年児童や中学3年生が児童に声をかける姿も見られた。</li> </ul> <p><b>【課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校舎を出るとき頭を手で覆うなど頭を守る行動ができていなかった。</li> <li>・帽子をかぶって避難の方がよいという助言をいただいた。</li> <li>・今回は道路の端を小走りで避難させたが、道路の真ん中を避難した方がよいという指導があった。</li> <li>・二次避難場所が狭く地域住民も避難するので本当に現在の二次避難場所が適切なのか町と情報交換し、より安全な二次避難場所を検討する必要がある。</li> <li>・中学校とも連携し、より実践的な避難訓練となるように訓練の内容を今後も検討する必要がある。</li> </ul>
成果物	

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

**【実践プログラム番号： 6】** ※3

タイトル	保護者への児童引き渡し訓練
実施月日（曜日）	6月6日（金）
実施場所	本校体育館及び駐車場
担当者または講師	担当者・講師等の区分：本校職員 氏 名：平江健 所属・役職等：理科専科
所要時間または「コマ数×単位時間」	2時間
プログラムのカテゴリ、形式※4	イベント・行事、避難・防災訓練
活動目的※5	災害を想定した訓練
達成目標	災害時に児童を保護者や代理人へ確実に、安全に引き渡すことができる
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大雨洪水警報が出たことを想定し、全児童体育館に集合</li> <li>・保護者へ電話連絡網や一斉配信メールで引き渡しを知らせる</li> <li>・来校した保護者を引き渡しカードで確認し、児童を引き渡す</li> </ul>
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本校職員</li> <li>・引き渡しカード</li> </ul>
参加人数	本校児童198名、本校職員18名、保護者60名
経費の総額・内訳概要	0円（ただし、プリント印刷、ラミネートに関する費用を除く）
成果と課題	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多くの保護者の協力により、引き渡しカードを使って無事に児童を引き渡すことができた。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・車で来校される保護者の駐車場所、児童を引き渡す時のルール、児童引き渡しを行う際や引き渡し中止の判断基準、教育委員会・防災課との連携、体育館が地域の避難所となった場合の児童の待機場所など実際に引き渡しを実施するには多くの課題がある。各関係機関と連携し、次年度までに1つ1つの課題を解決する必要がある。</li> </ul>
成果物	

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。



**【実践プログラム番号： 7】** ※3

タイトル	第二回たのうら子ども防災フェスタ
実施月日（曜日）	7月5日（土曜日）
実施場所	本校校舎、体育館、運動場
担当者または講師	担当者・講師等の区分：本校職員 氏 名：平江健 所属・役職等：理科専科
所要時間または「コマ数×単位時間」	1時間30分
プログラムのカテゴリ、形式※4	イベント・行事、体験学習
活動目的※5	防災意識を高める
達成目標	児童や保護者、地域住民の防災意識を高める
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・開会行事（校長挨拶、関係者紹介）</li> <li>・防災縦割り班で各ブースを回り、体験する</li> <li>・体験したことを感想に書く</li> </ul>
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・心肺蘇生法・AEDの練習用機器</li> <li>・昭和57年に発生した水害の写真</li> <li>・防災グッズ作りに必要な道具</li> <li>・災害や防災に関するビデオ</li> <li>・水消火器</li> <li>・消防車、煙発生装置</li> </ul>
参加人数	本校児童198名 本校職員18名 保護者60名 地域住民30名
経費の総額・内訳概要	0円（ただし、プリント印刷、ラミネートに関する費用を除く）
成果と課題	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本年度は保護者や地域住民にもフェスタに参加していただいた。児童や保護者、地域住民の感想からも参加者の防災意識を高めるイベントであることが実感できた。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・次年度以降のフェスタの目的を明確にし、各ブースの運営やどのような体験の場を設定するか、関係機関と連携してプランニングする必要がある。また、各学年の防災に関する学習が、フェスタによってより深まるような計画が必要である。</li> </ul>
成果物	

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

**【実践プログラム番号： 8】** ※3

タイトル	伝えよう！わたしたちの町の防災
実施月日（曜日）	5月～7月
実施場所	本校、田浦保育所、芦北幼稚園
担当者または講師	担当者・講師等の区分：本校職員・水害経験者 氏 名：青山浩子・森崎次郎・岩本省三 所属・役職等：6年担任・たのうら学級担任・地域住民
所要時間または「コマ数×単位時間」	20コマ×45分
プログラムのカテゴリ、形式※4	総合的な学習の時間
活動目的※5	防災に役立つ資料・材料づくり
達成目標	過去の災害について調べ、地域に災害や防災に関する情報を発信することができる。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水害体験者の講話を聞く</li> <li>・調べたいテーマを決める</li> <li>・水害や災害について調べる</li> <li>・調べてわかったことをどのように発信するか決める</li> <li>・情報を発信する準備をする</li> <li>・グループごとに情報を発信する</li> </ul>
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水害経験者による講話</li> <li>・画用紙</li> <li>・A4コピー用紙</li> <li>・劇で使う小道具</li> <li>・パソコン</li> <li>・プロジェクター</li> </ul>
参加人数	本校児童34名、地域住民、保育園職員
経費の総額・内訳概要	88000円（プリント印刷、ラミネートに関する費用を除く）
成果と課題	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・過去の水害のことを伝えたいという児童の思いから、小学校低学年向けの絵本とポスター、幼稚園・保育所向けの絵本とポスター、地域住民へのパンフレットなどを作成することができた。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今回作成した絵本などは、校区だけでなく町全体へ広げていく必要がある。そのためにも、教育委員会や町の防災課と連携して取り組む必要がある。</li> </ul>
成果物	絵本、紙芝居、パンフレット、ポスター

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

**【実践プログラム番号： 9】** ※3

タイトル	ボランティア名人になろう
実施月日（曜日）	9月～12月
実施場所	本校、校区、体育館
担当者または講師	担当者・講師等の区分：本校職員、社会福祉協議会 氏 名：吉田幸広、草野洋平 所属・役職等：3年担任、社会福祉協議会 総務課 地域福祉係
所要時間または「コマ数×単位時間」	20コマ×45分
プログラムのカテゴリ、形式※4	総合的な学習の時間
活動目的※5	防災意識を高める
達成目標	災害時などに障がいのある人たちに何ができるか考え、地域でできることをグループごとにまとめる
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オリエンテーション（自分たちの地域を見つける）</li> <li>・体験（車いす体験、高齢者疑似体験、アイマスク体験）</li> <li>・町を見つめ直す</li> <li>・町探検（災害が起こったときに体の不自由な人たちが困りそうな場所を探す）</li> <li>・防災福祉マップ、防災掲示物などを作成する</li> <li>・グループ発表</li> </ul>
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会福祉協議会 総務課 地域福祉係 草野洋平</li> <li>・車いす</li> <li>・アイマスク</li> <li>・画用紙</li> <li>・地域の白地図</li> <li>・写真</li> </ul>
参加人数	社会福祉協議会の関係者7名、本校児童33名、本校職員3名
経費の総額・内訳概要	0円（ただし、プリント印刷、ラミネートに関する費用を除く）
成果と課題	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域探検から障がいのある人たちが避難するときに困る場所を探し、防災福祉マップを作成することができた。</li> <li>・地域への防災啓発が重要であると考え、防災掲示板を作成することができた。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本年度は、防災福祉マップや防災掲示物の作成、公民館への掲示で終わってしまったが、町の総務課へ情報発信するなど、子供たちの学びをもっと違う方法で発信する工夫が必要である。次年度以降は、3年生の学びが町をよりよくするための資料となるような学習を考えたい。</li> </ul>
成果物	掲示物

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3.項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4.項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： 10】※3

タイトル	運動会（防災リレー）
実施月日（曜日）	9月28日（日曜日）
実施場所	本校運動場
担当者または講師	担当者・講師等の区分：本校職員 氏 名：吉田幸広 所属・役職等：3年担任
所要時間または「コマ数×単位時間」	15分
プログラムのカテゴリ、形式※4	イベント・行事
活動目的※5	防災意識を高める
達成目標	防災に関するアナウンスと防災に関する競技をすることで児童や保護者の防災意識を高める
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本校が取り組んでいる防災に関する情報をアナウンスする</li> <li>・防災縦割り班のメンバーでリレーを行う</li> </ul>
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ペットボトル70本</li> <li>・段ボール10枚</li> </ul>
参加人数	本校児童198名
経費の総額・内訳概要	0円
成果と課題	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・運動会の中で保護者に対し防災に関するアナウンスや防災リレーを行うことで保護者や地域住民に啓発することができた。</li> <li>・保護者や地域住民が集まる機会があまりないので、運動会というイベントを地域の防災意識を高めるための場として活用できる。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・防災リレーや防災に関するアナウンスなどを各学年の防災教育と関連付けたり、児童自身に考えさせたりするなど工夫する必要がある。</li> </ul>
成果物	

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

**【実践プログラム番号： 11】** ※3

タイトル	緊急地震速報を活用した地震避難訓練
実施月日（曜日）	11月5日
実施場所	本校校舎内
担当者または講師	担当者・講師等の区分：本校職員 氏名：平江健 所属・役職等：理科専科
所要時間または「コマ数×単位時間」	10分
プログラムのカテゴリ、形式※4	避難・防災訓練
活動目的※5	災害を想定した訓練
達成目標	緊急地震速報を聞いた後、命を守るための安全な行動ができる
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業中に緊急地震速報（クルグラット）を放送する</li> <li>・授業者や担任の指示に従い児童は机の下など安全な場所に避難する</li> <li>・担任や授業者の講話</li> </ul>
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・緊急地震速報受信端末クルグラット</li> </ul>
参加人数	本校児童198名 本校職員18名
経費の総額・内訳概要	0円
成果と課題	<p><b>【成果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年に引き続き1年間に2回以上地震避難訓練を行っているため、全児童が落ち着いて避難行動をすることができた。緊急地震速報が始まると学校全体が静かになり、子どもたち全員が放送に耳を傾けていた。</li> </ul> <p><b>【課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・避難訓練の目的を明確にする必要がある。</li> <li>・様々な行事があり余裕時数がないなかで、どのような訓練がどの程度必要か、年間計画を検討する必要がある。</li> <li>・様々な状況を想定した訓練を年度当初に計画する必要がある。</li> </ul>
成果物	

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

**【実践プログラム番号： 12】** ※3

タイトル	学級懇談会での保護者への情報発信「ちょこっと防災」
実施月日（曜日）	11月30日（日）
実施場所	各学年の教室
担当者または講師	担当者・講師等の区分：本校職員 氏 名：平江健 所属・役職等：理科専科
所要時間または「コマ数×単位時間」	5分～10分
プログラムのカテゴリ、形式※4	その他学校内での時間
活動目的※5	防災意識を高める
達成目標	防災に関する情報を発信することで保護者の防災意識を高める
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学級懇談会で話題にする防災のテーマを検討する</li> <li>・防災啓発資料「ちょこっと防災」を作成する</li> <li>・学級懇談会で資料を活用し、防災に関する啓発を行う</li> </ul>
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災啓発資料「ちょこっと防災」</li> </ul>
参加人数	保護者 約60名
経費の総額・内訳概要	0円（ただし、プリント印刷、ラミネートに関する費用を除く）
成果と課題	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学級懇談会で話題にすることで、参加した保護者の防災に対する意識を高めることができた。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今回は、担当者が資料を作成したが、各学年の学習と連携させ児童が啓発資料を作成するほうがより効果的に啓発することができると思う。学級懇談会を防災に関する情報を発信する場ととらえ、情報発信の場として活用するための計画を立てる必要がある。</li> <li>・今後は防災グッズ作りなどの映像を放映したり、実演したりしながら、防災について学ぶ場となるように計画する必要がある。</li> </ul>
成果物	防災啓発資料「ちょこっと防災」

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

**【実践プログラム番号： 13】** ※3

タイトル	学習発表会で防災について保護者、地域に発信（5年）
実施月日（曜日）	11月30日（日）
実施場所	体育館
担当者または講師	担当者・講師等の区分：本校職員 氏 名：溝口万代美、島田翔平 所属・役職等：5年担任
所要時間または「コマ数×単位時間」	10分
プログラムのカテゴリ、形式※4	イベント・行事
活動目的※5	災害に強い地域をつくる
達成目標	防災に関する情報を発信することで保護者や地域住民の防災意識を高め、災害に強い地域をつくる
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合的な学習の時間に調べたことをまとめる</li> <li>・学習発表会で発表する内容を考える</li> <li>・学習発表会で保護者や地域住民に向けて発信する</li> </ul>
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パソコン</li> <li>・発表資料</li> <li>・画用紙</li> <li>・A4コピー用紙</li> </ul>
参加人数	本校児童198名 本校職員18名、保護者100名 地域住民30名
経費の総額・内訳概要	0円（ただしプリント印刷、ラミネートに関する費用を除く）
成果と課題	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・防災に関する情報を発信することで地域住民や保護者の防災意識を高めることができた。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習発表会は保護者や地域住民に情報を発信するための重要な場である。今後、学習発表会での情報発信を続けるためには、年度当初の防災教育に関する情報共有や防災に関する行事の計画を立案する必要がある。</li> </ul>
成果物	

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

**【実践プログラム番号： 14】** ※3

タイトル	教室以外の場所での被災を想定した避難訓練
実施月日（曜日）	12月11日（木）
実施場所	本校校舎、体育館、運動場
担当者または講師	担当者・講師等の区分：本校職員 氏 名：平江健 所属・役職等：理科専科
所要時間または「コマ数×単位時間」	1コマ×15分
プログラムのカテゴリ、形式※4	避難・防災訓練
活動目的※5	災害を想定した訓練
達成目標	教室以外の場所で被災しても自分の命を守るための行動をとることができ、運動場まで安全に避難することができる
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前指導（避難訓練の説明や約束）</li> <li>・避難場所で待機</li> <li>・緊急地震速報（クルグラット）を放送</li> <li>・避難行動をとる</li> <li>・担任による避難経路の説明や地震が起こった時に命を守るためにどのように行動すればよいか説明</li> </ul>
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・緊急地震速報受信端末（クルグラット）</li> </ul>
参加人数	本校児童198名 本校職員18名
経費の総額・内訳概要	0円
成果と課題	<p><b>【成果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教室以外の場所での訓練を初めて実施した。机がない場所もあり、どこに避難すればよいか戸惑う児童もいたが、これまでの学習の成果を発揮し、一番安全と思われる場所に身を屈めて頭を守る行動をとることができた。このような教室以外の場所での訓練を何度か繰り返すことで、どのような場所で被災しても児童は素早く安全な場所を探し、命を守るための行動をとることができるようになると思われる。</li> </ul> <p><b>【課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今回は、学年ごとに訓練場所を指定して実施したが、担任がいないことを想定した訓練や休み時間、昼休みの訓練なども計画する必要がある。そのためにも目的を明確にしたうえで訓練を行うことが重要である。</li> </ul>
成果物	

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。



**【実践プログラム番号： 15】** ※3

タイトル	地域への防災通信の発行
実施月日（曜日）	12月
実施場所	田浦小学校校区全域
担当者または講師	担当者・講師等の区分：本校職員 氏 名：平江健 所属・役職等：理科専科
所要時間または「コマ数×単位時間」	新聞製作60分
プログラムのカテゴリ、形式※4	その他（地域への情報発信）
活動目的※5	防災意識を高める
達成目標	本校の防災教育に関する情報を発信することで、地域住民の防災に関する関心を高める
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災通信に記載する内容検討</li> <li>・防災通信の記事作成</li> <li>・防災通信の発行</li> </ul>
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ラミネート</li> <li>・B4コピー用紙</li> </ul>
参加人数	田浦小学校校区全域（回覧または掲示板への掲示）
経費の総額・内訳概要	0円（ただし、プリント印刷、ラミネートに関する費用を除く）
成果と課題	<p><b>【成果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今回は、本年度田浦小が実施した防災フェスタや避難訓練について記事で紹介した。防災通信を発行したことで、地域全域へ防災に関する情報を発信することができた。地域の方々からも防災通信に関する好意的な感想をいただいた。今後も防災通信を定期的に発行することで、地域の防災意識の向上に貢献していきたい。</li> </ul> <p><b>【課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今回の通信は、担当が記事を作成し発行したが、今後は児童による防災通信の発行も考えられる。また、防災通信の内容も記事のテーマを決め、地震や津波などの情報に特化した防災通信も検討すべきである。</li> </ul>
成果物	防災通信

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

**【実践プログラム番号： 16】** ※3

タイトル	民生・児童委員の方々に防災について発表（6年）
実施月日（曜日）	12月12日
実施場所	本校 音楽室 デコちゃんルーム
担当者または講師	担当者・講師等の区分：民生・児童委員・本校職員 氏 名：民生・児童委員10名、青山浩子 森崎次郎 所属・役職等：民生・児童委員、6年担任 たのうら学級担任
所要時間または「コマ数×単位時間」	11:30～13:00
プログラムのカテゴリ、形式※4	イベント・行事
活動目的※5	防災に強い地域をつくる
達成目標	防災に関する情報を地域住民に発信することで地域の防災意識を高める
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災に関する劇とプレゼンテーションを用いた発表</li> <li>・民生・児童委員さんと交流給食</li> <li>・パンフレット贈呈式</li> </ul>
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・A4コピー用紙</li> <li>・ラミネート</li> <li>・パソコン</li> <li>・画用紙</li> </ul>
参加人数	本校児童33名、本校職員3名、民生・児童委員10名
経費の総額・内訳概要	0円（ただし、プリント印刷、ラミネートに関する費用を除く）
成果と課題	<p><b>【成果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・総合的な学習の時間に調べたことを民生・児童委員さんに発表することができた。民生・児童委員さんからも防災の大切さを学んだという感想をいただいた。また、パンフレットの贈呈も行った。今後も防災劇の発表やパンフレットの贈呈を行い、地域への情報発信を続けていきたい。</li> </ul> <p><b>【課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今回は、民生・児童委員の方々を招待し、防災に関する情報の発信を行ったが、どの学年が何を発信するか計画的に情報発信する必要がある。今後も各学年の防災教育年間計画から本校で無理なくできる防災の情報発信方法を考えていく必要がある。</li> </ul>
成果物	

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

**【実践プログラム番号： 17】** ※3

タイトル	災害時伝言ダイヤル体験（6年）
実施月日（曜日）	12月22日（月）
実施場所	デコちゃんルーム
担当者または講師	担当者・講師等の区分：本校職員 氏 名：青山浩子、森崎次郎 所属・役職等：6年担任、特別支援学級担任
所要時間または「コマ数×単位時間」	60分
プログラムのカテゴリ、形式※4	体験学習
活動目的※5	防災意識を高める
達成目標	災害用伝言ダイヤルの利用方法について学び、体験することで災害時の安否確認の方法を知ることができる。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校挨拶</li> <li>・日本公衆電話会紹介と進め方の説明</li> <li>・こども手帳贈呈式</li> <li>・ビデオ視聴</li> <li>・171体験</li> <li>・質疑応答</li> </ul>
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公衆電話</li> <li>・スクリーン</li> <li>・プロジェクター</li> <li>・スクリーン</li> <li>・171災害用伝言ダイヤルのDVD</li> </ul>
参加人数	本校6年児童33名、本校職員4名
経費の総額・内訳概要	0円
成果と課題	<p><b>【成果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大震災のビデオを見たり、災害用伝言ダイヤルの使い方について学んだりすることを通して児童の防災意識を高めることができた。</li> </ul> <p><b>【課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今回の体験を体験だけで終わらせるだけでなく、家族同士の安否確認の方法について各家庭で話題にするなど家庭への啓発も含めた計画をするべきだった。</li> </ul>
成果物	

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

#### 4. 苦労した点・工夫した点

<p><b>プランの立案 と調整で 苦労した点 工夫した点</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○本年度だけでなく、次年度以降も継続可能な実践を計画し、実施した。</li> <li>○避難訓練では、訓練内容や訓練の目的を絞って実施した。</li> <li>○「学級懇談会での保護者への情報発信」や「緊急地震速報を活用した避難訓練」のように5分～10分程度で実施できる計画を立て、教科学習や日程への影響がでないように配慮した。</li> <li>○防災フェスタのような大きなイベントだけでなく、どの学校でも短い時間と少しの労力ですぐに取り組み「ちょこっと防災」のような取組を行った。</li> <li>○本年度の防災教育に関する取組を担当者が代わっても引き継げるように次年度の避難訓練計画や防災フェスタの計画を作成した。</li> <li>●年度当初の計画が明確でなかったため、目的や日程を十分に検討したうえで行事を実施することができなかった。避難訓練では、運動場への避難など事後指導を含めると30分以上時間を確保する必要があり、時間調整に苦労した。</li> <li>●本年度は防災教育に関する組織がないため、多くのプランを担当者のみで立案、調整することとなった。昨年度までの防災教育の取組や本年度の防災教育の方向性など引継ぎがうまくできなかったため、職員間の情報共有ができず苦労した。</li> <li>●2学期以降に防災教育を実施する学年があり、学校の行事や訓練と各学年の防災に関する学習をうまく関連付けできず、各学年の学習をイベントに活かすことができなかった。</li> <li>●防災通信など様々な形で情報を発信したが、一方的な発信になってしまった。今後は、地域の区長などと話し合い、地域の実態や地域住民のニーズも把握する必要がある。</li> <li>●今後は町の防災計画と関連づけて避難訓練を計画したり、地域への情報発信を行ったりする必要がある。</li> <li>●防災フェスタでは、関係機関と会議を2回実施し、フェスタの日程や準備・内容について協議を行ったが、時間も回数も少なく綿密な打ち合わせを行うことができなかった。</li> </ul>
<p><b>準備活動で 苦労した点 工夫した点</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○予算が限られているため、情報発信するための費用のみに予算を絞った。</li> <li>○関係機関との連携を密にとりながら防災フェスタの準備を進めた。</li> <li>○今後防災教育に関する予算がつかないことを踏まえ、予算の裏付けがなくてもできるように、学校や町役場にあるものを活用して準備を行った。</li> <li>○防災縦割り班活動では、昨年度作成した教材や購入した道具などを活用することで準備する時間を省くことができた。</li> <li>●防災フェスタを実施する前に関係機関の担当者と本校職員が打ち合わせを行う予定だったが、日程調整がうまくいかず、十分な打ち合わせを行うことができなかった。</li> <li>●年度当初に予算の活用計画を明確にしていなかったため、何に予算を使うか判断に迷った。</li> <li>●防災教育に関する組織がないため、担当者一人で打ち合わせ、調整することが多く苦労した。</li> </ul>

<p><b>実践に 当たって 苦労した点 工夫した点</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○避難訓練の計画では、天候に関係なく訓練を実施することができるように晴れの場合の訓練と雨の場合の訓練を計画した。</li> <li>○目的を一つに絞り、短時間でできる避難訓練を実施した。できるだけ日程変更をすることなく、授業への影響が少なくなるような計画を立てた。</li> <li>○地域への情報発信も地域住民との行事や学習発表会のようなこれまでの行事を効果的に活用して実践した。</li> <li>○学級懇談会における「ちょっと防災」のように、地域住民への情報発信も、できるところから実施した。</li> <li>○各学年の防災教育や、児童の発想を活かした情報発信を行った。</li> <li>○公道を使用した避難訓練では、学校の地域応援団の方々に交差点に立ってもらい、安全を確保したうえで実施した。</li> <li>○避難訓練の計画を立てるときは、「訓練が実際の災害時に本当に役立つか」常に考えて計画した。</li> <li>○二次避難場所や体育館が地域住民の避難場所に設定された場合、どこに児童を避難させるかなど町の避難計画と連動したプランが必要である。</li> <li>●昨年に引き続き防災フェスタを実施したが、計画立案から準備、運営のほとんどを本校職員で行ったため大変だった。防災フェスタに向けた校内の会議も2回しかなく、情報共有もあまりできなかった。</li> <li>●防災フェスタでは、本校児童を含めた250名以上の参加者の体験スケジュール作成に苦労した。</li> <li>●防災フェスタ開催の地域への広報に苦労した。</li> <li>●保護者への児童引き渡し訓練では、ほとんどの保護者が車で児童を迎えに来るため、駐車場の確保や交通事故の未然防止に苦労した。</li> <li>●避難マニュアルが実際の災害時に役立つかどうか検証していないため、避難訓練の計画に苦労した。</li> <li>●限られた時間の中であらゆる状況を想定した避難訓練を実施することが難しい。</li> </ul>
--	---

## 5. 他の団体、地域との連携

協力・連携先の分類	団体名、組織名	協力・連携の内容
学校・教育関係・ 同窓会組織	①芦北町教育委員会 ②芦北教育事務所 ③田浦中学校 ④あしきた青少年の家 ⑤熊本県教育委員会社会教育課	①防災フェスタ ②活動全般 ③小・中合同避難訓練 ④防災フェスタ ⑤防災フェスタ
保護者・ PTAの組織	①地域応援団 ②田浦小PTA研修部 ③保護者	①防災フェスタ 小・中合同避難訓練 保護者への児童引き 渡し訓練 ②防災フェスタ ③小・中合同避難訓練 防災フェスタ 保護者への児童引き 渡し訓練
地域組織	①各地区の区長 ②民生・児童委員 ③地域住民 ④芦北町消防団	①防災フェスタ 公民館への掲示 ②6年児童発表 防災フェスタ ③防災フェスタ 小・中合同避難訓練 ④防災フェスタ
国・地方公共団体・ 公共施設	①芦北町役場 ②芦北消防署 ③芦北警察署 ④芦北町社会福祉協議会	①防災フェスタ ②避難訓練 防災フェスタ ③避難訓練 ④3年総合的な学習の 時間
企業・ 産業関連の組合等	日本公衆電話会	①災害時伝言ダイヤル 体験
ボランティア団体・ NPO法人・NGO 等	なし	
職業、職能団体・ 学術組織、学会等	なし	

## 6. 成果と課題（実践したプラン全般について）

### 成果として 得たこと

#### ①児童の防災意識と防災に関する実践力が向上した。

- ・本年度、教科学習や総合的な学習の時間、学期ごとに実施される避難訓練の中で大きく変化したのは、児童の避難する姿である。多くの児童が即座に机の下などに入り、地震が収まるまで静かに待てるようになった。運動場への避難においても短時間に集合することが可能となった。小・中合同避難訓練では、6年生が1年生の手を引いて避難したが、6年生全員が1年生の走るペースに合わせて避難していた。小・中合同避難訓練以外の訓練においても、1年生と6年生をペアで行動させることが増えたため、普段の休み時間や昼休みなども6年生が1年生と一緒に遊ぶ姿が多くみられるようになった。1年生と6年生の絆が深まり、一緒に遊ぶ姿が多くみられるようになったことも防災教育や避難訓練の成果の一つといえる。
- ・防災フェスタのコメントとして、1年生から6年生まで災害に備えることの大切さを実感したというコメントが多く、防災意識の向上が感じられた。親子で体験した家族もあり、親子で体験することで家庭の防災意識を高めることにもつながった。
- ・防災縦割り班活動では、6年が中心となり活動を進めた。1年生から6年生まで、楽しみながら防災に関する学びを深めていた。
- ・本年度も昨年度に引き続き、避難訓練を何度も実施した。繰り返し訓練を実施することで、子供たちの避難行動は改善した。  
12月に実施した教室以外の場所での地震避難訓練では、担任の指示がなくても自ら安全な場所を見つけ避難する子供や自然と頭を手で覆い、身を屈めるなど主体的な避難行動が見られた。教科や総合的な学習の時間における防災教育と訓練の繰り返しがこのような子供の自主的な行動につながったものと思われる。

#### ②避難マニュアルを改善することができた。（行政との連携の重要性）

- ・本年度は、昨年に引き続き実施した小・中合同避難訓練や保護者への児童引き渡し訓練、様々なミニ避難訓練を実施した。訓練を実施したことで、現在学校で作成している学校防災マニュアルの課題が浮き彫りとなった。学校として実際の災害時にも役立つ学校防災マニュアルを作成したつもりだったが、大雨が降った際の対応マニュアルや体育館が地域の避難所として開設されたときの職員の対応や、体育館が使用できない場合の児童の避難場所など、想定すべき課題があることを再認識した。今後は、町の防災計画や行政と連携した避難計画の作成を目指し、町当局と連携して取り組んでいく予定である。
- ・昨年度に引き続き、小・中合同避難訓練には地域住民の方々にも参加していただいた。地域で避難訓練を実施する機会があまりないため、地域の方々にとっては重要な訓練の機会となったと思われる。少ない回数ではあるが、今後も避難訓練を実施する際は地域にも呼びかけ、地域の防災意識の向上に努めたい。

#### ③地域住民とのつながりができた。

- ・過去の水害体験者や民生・児童委員の方々などこれまで以上に地域住民との絆を深めることができた。地域住民は、子供たちが学校外で被災したときに子供の避難を支援する重要な存在である。地域の防災意識の向上は、子供たちの命を守ることににつながる。今後も地域住民との絆を

重視し、地域と学校の関係が密になるような計画を立てていきたい。

④消防署、消防団、町役場など地域の関係機関とのつながりができた。

- ・3年間防災教育に取り組む中で消防署や消防団など様々な団体とつながり、一緒に活動することができた。学校としては、学校外の団体とのつながりができたことが、今後の防災教育の財産になると思われる。今後も、授業や避難訓練等で関係団体との関係を深め、学校における防災教育の質を高めていきたい。

⑤防災教育を地域に発信することの重要性を再認識した。

- ・芦北町でも自主防災組織が立ち上げられ、少しずつ防災に関する取組が始まっている。ただ、地区によっては防災に関する取組があまり進んでいない地区もある。本校には、防災に関する書籍やグッズ、楽しんで学べる活動プランもあり、これらの取組を保護者や高齢者向けに情報発信していくことはとても重要である。今後も、子供たちだけでなく地域の防災教育のセンター的役割の一端を担えるよう防災教育を継続し、情報発信を積極的に行っていく予定である。

⑥地域住民、保護者参加型の防災フェスタによる地域の防災意識を向上させることができた。

- ・本年度は、防災フェスタに地域住民にも様々な体験活動に参加していただいた。現在地域で地震や津波、水害等について学ぶ機会はあまりなく、消火器の使い方など実際に体験する場もない。このような現状において本校が実施した防災フェスタは、地域住民や保護者の防災意識を高めるだけでなく、災害に強い地域づくりに大きく貢献しているものと思われる。今後も、毎年目標と目的を明確にしたうえで防災フェスタを計画し、区長や老人会の方々などに招待状を書き、防災フェスタへの参加を促すなど、継続的に取り組んでいく予定である。また、防災フェスタだけでなく、児童の学びを地区で発表するなど防災に関する出前授業の実施も考えていきたい。

⑦公民館への掲示による持続的な防災に関する啓発活動を行うことができた。

- ・地域への情報発信となると発表や交流を中心に考えがちであるが、公民館への掲示なども重要な情報発信の一つである。地域の方や保護者を学校に招く防災フェスタのようなイベントは、年に一度が限界である。それに対し、公民館への掲示や公共施設に防災に関する掲示物を掲示するのは、防災フェスタほどの労力を使わずに実行することが可能である。また、防災フェスタと違い、5年、10年と長期間掲示することも可能で地域住民の意識向上に継続的な効果がある。防災フェスタのような直接的な取組と掲示物のような間接的な取組を併せて実施することでより効果的に地域の防災意識の向上へとつながると考える。

⑧地域防災への貢献が子供たちの自信へと繋がっている。

- ・本年度は、公民館の防災掲示物の作成や安否札、避難準備物チェックリスト、防災絵本、防災紙芝居など多くの製作物を作成した。子供たち自身も、自分たちの学びが幼稚園や保育所、他校の防災教育、地域住民の防災意識の向上に役立っていることに喜びを感じている。昨年までの本校の防災教育は、児童の防災意識の向上や主体的な避難行動が主目的であった。昨年も、地域への発信を意識した取組も行っていたが、学びの主体が子供であり、多くの学びが子供中心であった。本年度は、学びの



	<p>主軸を子供から地域へと移した。子供たちの学びも、自分の学びを誰かに発信することを主目的に学習を進めた。地域への発信という他者意識を持たせたことで、子供たちの学びに真剣さが増し、より主体的に地域に何が必要かを考えるようになった。これらの意識は、防災教育に関する学習だけでなく、日常生活の様々な場面でも現れつつある。防災教育を継続したことで、子供たちは地域への関心を持つようになった。災害の危険箇所を調べ、地域住民から災害に関する講話を聞く活動、学習発表会での発表する活動を通して、より深く地域を知り、地域に貢献しようとする心を育むことができた。</p> <p>⑨子供の情報発信が大人を動かす</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本年度は、学習発表会や民生・児童委員の方々との交流会で防災に関する発表を行った。発表を聞いた地域住民や保護者から、「防災の大切さを学んだ。」という感想を多く頂いた。子供たちの発表が、大人の心を多少なりとも動かしていると感じた。毎年継続的に防災の重要性を訴えることで、必ず地域の防災意識は向上するものと思われる。地域の防災意識を向上させる鍵は、まさに子供たちの学びを発信することである。本年度は、消防団の方々や防災フェスタに参加した保護者や地域住民の心を動かすことができた。今後も、児童の学びを中心に、児童を中心に据えた取組を継続することで、地域防災の向上に努めたい。</li> </ul>
<p><b>全体の反省・感想・課題</b></p>	<p>①継続するためには引継ぎと職員間の共通理解が重要である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本年度は、防災教育の方針について話し合う場がないまま、防災教育を進めてきた。そのため、本年度四月に異動してきた職員は、防災教育に関する共通理解があまりできないまま、防災教育に取り組むこととなった。その都度、担任とは話し合い情報提供を行ってきたが、年度当初に職員全体で共通理解する必要があった。 次年度は、年度当初に防災教育に関する共通理解の場を設定し、避難訓練の計画、防災フェスタの目標や日程、防災教育の見直しなどを全員で役割分担して行う必要がある。また、夏休みなどを利用し、二学期以降の学習計画を立て、地域への発信や講師依頼など計画的に進めなければならない。</li> </ul> <p>②避難訓練の想定を明確にする必要があるが、学校独自の想定は困難である。町当局や教育委員会と連携して避難マニュアルを作成する必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・防災教育の研究の中で防災マニュアルの作成を行ったが、災害の想定が具体的ではなく、曖昧なままになっている計画もある。実際の災害発生時に戸惑うことなく適切な避難ができるようにするためにも、行政や地域住民と連携してマニュアルの作成や避難訓練計画を立てる必要がある。また、小学校の体育館は地域の避難所となる。避難所が開設された場合、児童の避難場所として体育館を使用することは難しくなる。さらに避難所に避難してきた地域住民への対応を、本校職員が行う可能性もある。この点に関しても、町当局や教育委員会と意見交換し、職員が行う対応を明確にする必要がある。</li> </ul> <p>③あらゆる災害について防災教育の中で学ばせるためには防災教育の年間計画の見直しが必要である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本校では、防災教育年間計画を作成し、避難訓練だけでなく教科や総合的な学習の時間、道徳などに関連付けて防災に関する学習を行っている。ただ、時数や教科の特性から全ての災害を網羅して学習を組むことは難しい。本年度は、過去の水害を学習に取り入れ、過去の水害の掘り起こしを行った。芦北では、地震、津波だけでなく水害が発生する可能</li> </ul>

性も高い。また、地区によっては山もあり、土砂崩れの危険性もある。今後も、2年に一度防災教育年間計画の見直しを行い、洪水や土砂崩れについて学ぶ機会を設けていく予定である。

・あらゆる状況を想定した避難訓練の実施

本年度、本校では、教室での被災だけでなく教室以外の場所での被災も想定した避難訓練を実施した。音楽室からの避難では、上靴を脱いだまま避難しようとする児童もいた。このことから、小学生の場合、その場でどう行動するか体験することが、非常に重要であると感じた。今後も、担任不在時の避難や、保健室に数名の児童が休んでいた場合の避難、障がいのある児童への避難支援など、どのような状況においても全員が安全に避難できる訓練を実施していく予定である。

④避難訓練についても小学校と中学校で連携し、避難計画などを作成する必要がある。

・本年度は、保護者への児童引き渡し訓練など小学校のみで実施した。ただ、実際は中学校に兄弟姉妹のいる児童もいることから、中学校とも連携して訓練を実施する必要がある。また、周辺の道路は狭く、多くの保護者が車で迎えに来た場合、かなりの混雑が予想される。次年度以降訓練を実施する場合は、町の総務課との連携や、地域住民への連絡、児童を引き渡す際の規定についてPTAと協議する必要性など多くの課題がある。

⑤防災キャラクター「まもるくん」を町の防災キャラクターにできないか提案する予定である。

・今後、防災教育を継続していくうえで、町との連携は不可欠である。田浦小では、防災キャラクターの「まもるくん」が、防災教育の象徴的存在である。芦北町には、「まもるくん」のような防災の象徴的存在がない。今後は町当局と連携し、「まもるくん」を町の防災キャラクターとして活用する方法も考えられる。「まもるくん」を広めることは、防災教育を広めることや防災意識の向上につながる。本年度は、「まもるくん」をうまく活用することができなかった。次年度は、「まもるくん」を町の防災キャラクターとして活用してもらうように町当局に働きかける予定である。

⑥防災フェスタや避難訓練を防災教育と関連付けて、防災教育での学びが深まるように計画する必要がある。

・防災教育年間計画に基づき、全ての学年で一年間を通して防災教育を行ってきた。本年度も、昨年度同様に防災フェスタや避難訓練を実施してきた。ただ、中間報告会で指摘があったとおり、訓練や防災フェスタと防災教育との関連が十分できていなかった。次年度は、年間計画を見直し、各学年の防災教育での学びが、訓練や防災フェスタで深まるようにする必要がある。

⑦過去の災害の掘り起こしを行い、地域の特性に応じた防災教育を継続的に行うことが重要である。

・本年度は、芦北町で起こった昭和57年の水害から多くのことを学んだ。過去の災害から、私たちは多くのことを学ぶことができる。今後も芦北で起こった過去の災害を題材として防災教育に取り入れ、地域の特性に応じた防災教育を進めていきたい。

	<p>⑧訓練から見える課題を学習や学校生活改善に生かす。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 防災教育の学習や避難訓練の課題は、学校生活における日常的な課題と深くつながっていることが多い。例えば放送の聞き方や集合するときに私語をしない、先生の話静静地に聞く、校舎内では上靴をはく、ハンカチを常備しておく、上靴をきれいに並べておくなど学校全体やクラスの課題とつながっている。本年度も学校全体や各クラスで取り組み、改善していく必要がある課題を、避難訓練や防災教育の中で再認識することができた。今後も、防災教育や避難訓練を通して、本校の防災教育のテーマである、「主体的に判断し、自ら進んで行動できる子供の育成」を目指していきたい。</li> </ul>
<p><b>今後の 継続予定</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小・中合同避難訓練（平成27年度1学期）</li> <li>・ 小・中合同保護者への児童引き渡し訓練（平成27年度2学期）</li> <li>・ 防災フェスタ（平成27年度1学期）</li> <li>・ 年間計画に基づいた各学年の防災教育（平成27年度、年間を通して随時実施）</li> <li>・ 2年ごとの防災教育の見直し（本年度末）</li> <li>・ 過去の災害の掘り起こしと教材化（平成27年度、夏季休業中）</li> <li>・ 学習発表会での防災に関する地域住民への発表（平成27年度、3学期）</li> <li>・ 防災通信年3回以上の発行（平成27年度、学期に1回）</li> <li>・ 学級懇談会における「ちょこっと防災」の実施（平成27年度は学期に一度）</li> <li>・ 行政と連携した避難計画の作成（平成27年度、1学期）</li> <li>・ 各種避難マニュアル、避難訓練と町の防災計画との関連付け（平成27年度、夏季休業中）</li> <li>・ 防災教育年間計画の見直し（本年度末）</li> </ul>

## 7. 自由記述欄 ※6

※6 自由記述欄は、防災教育の実践で得られた知見、防災教育の普及に関わる提案等を盛り込んでください。また、前頁までの記述に不足した事項、参考資料、写真等を自由にご記入ください。なお、3ページ以内厳守をお願いします。

### 防災教育の実践で得られた知見

#### ○学校が地域防災のスタート

本校では、3年間防災教育に取り組んできた。3年間の実践で、保護者を中心に地域の防災意識の向上に貢献できたと思われる。本校の取組や関係機関とのつながりは、地域の防災活動に活用できるものもあり、防災フェスタなどのイベントなどに地区の区長などを招待することで学校の防災教育の発信にも努めたい。

#### ○コミュニティの再構築(隣近所との付き合い)

今回の防災教育を通して、児童の中に、自宅の近くに誰が住んでいるのか知らない児童がいることがわかった。児童の中には、帰宅後一人または兄弟姉妹で留守番をしている児童もいることを考えると、災害時に誰に助けを求め、誰と一緒に避難すればよいか考えるためにも地域住民と児童のつながりは非常に重要と思われる。

そこで、本年度は3月末までの間に、児童を通して地域に安否札を配付する。自宅近くの地域住民に安否札を配付し、安否札の使い方を説明するという活動を通して、失われつつある地域コミュニティの再構築につなげる予定である。今後も、防災フェスタへ自宅近くの地域住民を招待するなど地域住民と児童との交流を広げ、深めていこうと思う。

このように、地域住民とのつながりを深め、少しずつ人と人のつながりを広げていくことができるのも、防災教育の成果といえる。

#### ○自分の学びや努力が誰かの役に立つ喜び

(絵本づくり、パンフレット、安否札づくりを通して)

防災教育の中で、児童は絵本を作ったり、パンフレットを作成したりしてきた。児童は、作成や発表する活動を通して、自分たちの学びや活動が誰かの役に立つ喜びを実感していたように思う。防災劇や学習発表会における地域住民への発表では、わかりやすい発表となるように何度も練習を繰り返していた。絵本やパンフレット・安否札作りにおいても地域や他校の児童・園児にわかりやすく、使いやすいものとなるように、自分たちが作ったものに何度も修正を加えていた。自分たちの学びが誰かの役に立っているという経験を、児童に体験させることができたことも、防災教育の成果の一つである。

#### ○総合で取り扱うことの面白さ、意義(重なり広がっていく防災教育)

本校では3年間防災教育に取り組んできたが、毎年新たな発見と新たな学びがあった。児童の活動や学びにも毎年変化があり、児童と共に教師も多くのことを学んだ。また、地域への情報発信においては、毎年少しずつ広げていく楽しさもある。本年度は、地域住民を中心に、他校の低学年児童、保育所、幼稚園への情報発信に取り組むことができた。今後も毎年防災教育のテーマを決め、学習内容や情報発信方法に変化をもたせながら、本校の防災教育を深化させていきたい。

### 防災教育の普及に関わる提案

- ・教科の学習時間が増え、これまでの行事やイベントの実施が難しくなりつつある中では、避難訓練の回数の確保すら難しいのが現状である。学校の実態に合わせて、防災教育に関する行事や訓練を計画し、それが難しい場合は、本校のような10分避難訓練や、防災通信の発行、学級懇談会での「ちょこっと防災」などできるところから取り組んでいく必要がある。

(自由記述: 1/3)

「防災縦割り班活動」



(毛布を使った担架作り体験)



(視覚障がい者体験)  
「防災フェスタ」



(防災カルタ)



(防災クイズ)



(消防団による放水訓練)



(防災グッズ作り)

「小・中合同避難訓練」

「保護者への児童引き渡し訓練」



「6年生の民生・児童委員さんへの防災発表」



(昭和57年の水害について発表)



(水害に関する発表②)

(自由記述: 2/3)

「民生・児童委員の方々への防災劇」



「防災リレー」



「教室以外の場所での被災を想定した地震避難訓練」



(パソコン室での避難訓練)

「防災パンフレットの贈呈式」



3年生「ボランティア名人になろう」



(家庭科室での避難訓練)

「学習発表会での地域への情報発信」



(地震のメカニズムについて発表)



(安否札について発表)

(自由記述: 3/3)